

『奈良文化財研究所報告』の発刊によせて

平成13年（2001）に2つの国立文化財研究所が独立行政法人として統合されたことにともない、それまで3分冊の形式であった『奈良国立文化財研究所年報』や発掘調査概報をひとつにまとめる形で『奈良文化財研究所紀要』（以下『紀要』という）が発刊されました。その構成は、Iが各種の研究報告、II・IIIがそれぞれ飛鳥・藤原地区と平城地区で実施した発掘調査の概要報告から成り、奈良文化財研究所が創立70周年を迎えた令和4年（2022）まで引き継がれてきました。

しかし、翌令和5年（2023）に奈良文化財研究所では新たな報告書のあり方を展望して、それまで『紀要』のIに収録していた各種の研究報告をそのまま『紀要』に残し、II・IIIに収録していた発掘調査の成果をより豊かにするとともに、別途『奈良文化財研究所発掘調査報告』（以下『報告』という）としてまとめることとしました。

『報告』の内容はIが都城発掘調査部の飛鳥・藤原地区、IIが平城地区で、それぞれ実施した発掘調査について報告をおこなうとともに、過去の調査について、遺構・遺物の再整理によって明らかとなった研究成果報告も掲載することにより、過去1年間に都城発掘調査部でおこなった調査研究の成果を、よりわかりやすくご覧いただけるようにしました。

また、『紀要』では発掘調査の概要報告にとどまっていましたが、『報告』が正式報告であるとの位置づけのもとに、発掘作業と併行して実施した整理作業の結果を踏まえ、遺物の記述をより充実させるとともに、巻末にカラー図版を掲載して遺構・遺物の情報量を増やすこととした。

このように、今年度から毎年『紀要』とは別に『報告』を刊行することとなります、これを出発点として、さらに内容の充実に努めてまいりますので、忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いです。あわせて、今後とも研究所の調査・研究活動に対し、変わらぬご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

奈良文化財研究所
所長 本中 真